

2009年 7月24日
東レ株式会社

**植物由来材料を使用した環境配慮型繊維の
自動車内装用途に向けた本格展開開始について**
～ トヨタ自動車新型レクサス「HS250h」へ搭載 ～

東レ(株)はこの度、ポリ乳酸や植物由来ポリエステルといった環境配慮型の材料を使った繊維素材について、自動車用途に向けた本格的な量産展開を開始しました。すでに、本年7月14日に発売されたトヨタ自動車(株)の新型ハイブリッド車レクサス「HS250h」のラゲージ、フロアカーペットへの供給を開始しているほか、他の自動車メーカーへの提案も進めています。今後展開を予定している天井表皮、ドアトリム基材など向けを含め、展開規模は、初年度200t/年でスタートし、2015年までに5,000t/年への拡大を目指します。

自動車の内装用途に素材が採用されるためには、部位毎に異なる厳しい要求物性をクリアする必要があります。一般的に、ポリ乳酸などの環境配慮型材料は、通常使用されているポリエステルなどに比べて耐熱性や耐摩耗性などが劣るとされており、そのような弱点をカバーするための様々な工夫がなされてはいますが不十分な点も多く、これまでは一部の車種への限定的な採用にとどまっていました。

今回は、独自の加水分解抑制技術でポリマーを改質したほか、ポリマーアロイによる複合や紡糸工程での複合、高次加工での混織複合など、石油由来材料との複合のための様々な技術を開発しました。これらを総合的に駆使することで、自動車内装用途に求められる非常に高度な耐久性を実現し、量産車への本格的な展開が可能となりました。

また、自動車内装に向けた厳しい要求物性をクリアしたことで、今後は、一般衣料や産業資材など、さらに広い用途へも応用展開していくほか、より高い植物由来のバイオマス比率を実現すべく、さらなる素材開発にも注力して参ります。

環境配慮の重要性が叫ばれる現在、各自動車メーカーは地球と共生できる車社会を目指し、様々な先進技術開発に取り組んでいますが、自動車の重量の5～10%を占める車両内装部材についても、従来の石油由来材料から植物由来材料を用いた素材への切り替えを積極的に検討しています。植物由来材料は、製造から廃棄までのライフサイクルでCO₂の排出量を抑制するとともに、限りある石油資源の使用量削減につながるものとして、将来に向け大々的な使用拡大が期待されています。

東レは、“Innovation by Chemistry”のコーポレートスローガンのもと、環境配慮型製品の開発を積極的に推進し、環境配慮型の自動車用部材の展開を通じて、持続可能な循環型社会の発展に貢献してまいります。

以 上

<本件についてのお問い合わせ先>

【商品について】

東レ(株) 機能資材・商品開発センター (滋賀)077-544-3531 (大阪)06-7688-3423

【リリースについて】

東レ(株) 広報室 (大阪)06-7688-3085 (東京)03-3245-5178